私たち natuRable は、2016 年に立命館大学のプロジェクトとして発足しました。現在、環境問題に取り組む正課外団体として、ミクロネシア連邦ポンペイ州を対象に活動しております。2016 年から現地へ渡航し、現在 6 度の渡航経験があります。まだ若い団体ですが、有志の学生が集まり主体的に活動を行っています。

大学 4 年生、2 回目の渡航

natuRable メンバーの川本梨央と申します。どうぞよろしくお願いいたします。大学 3 年生で初めてミクロネシア連邦へ渡航し、今年が 2 回目の訪問となりました。2 年連続で、しかもミクロネシア連邦という小さな島国に行く大学生は、日本全国を探しても私含め、片手で数えられるほどではないかと思います。

日本との強いつながりがあるにも関わらず、日本ではまだまだあまり知られていないミクロネシア連邦。初めての渡航では、見るもの全てが新しく、息をつく間もなく目まぐるしく日々が過ぎていきました。2 回目となる今回の渡航では、ミクロネシア連邦の魅力を全身全霊で感じ、さらに大好きな国となりました。

私が考えるミクロネシア連邦の魅力

ミクロネシア連邦の魅力は、「時間」「価値観」「自然」この 3 つに集約できるのではないかと思います。

まず、島に流れる時間です。全てにおいて早さと正確さが求められると言っても過言ではない日本での生活に比べ、ミクロネシア連邦で流れる時間は驚くほどゆった〜りと流れています。両者とも良い面や悪い面を含んでいると思います。ただ、日本で常に時間に追われている私にとって、ミクロネシア連邦の静かにゆっくりと流れる時間はとても心地のよいものでした。

次に価値観についてです。特に人を大切にする彼らから、「与えること」を学びました。彼らは、見ず知らずの私たちに対し、見返りを求めることなく多くを与えてくれました。時にそれは、挨拶であったり、7 キログラムのドーナツであったり、取ってきた魚であったり、手料理であったり、本当に多くのものをいただきました。そんな彼らの優しさから、ここにいていいのだと、受け入れてもらえる安心感を得ることができました。

そして、なんといってもミクロネシア連邦の魅力は「自然」です。手を伸ばせば触れられる距離に美しい自然があります。のびのびと育つ木々、少しあしを伸ばせば眺められる海、満点の星空がそこにはあります。豊かな自然に触れ、心が満たされていくのを日々感

じました。

鶏の鳴き声で目覚める朝

渡航の目的の１つ環境教育について

　さて、前置きが長くなってしまいましたが、ここからはミクロネシア連邦での私たちの活動についてお話していこうと思います。私たちは、現地で社会調査、各機関への訪問、ラジオ放送、そして環境教育に取り組んできました。今回は、環境教育について取り上げます。

ミクロネシア連邦におけるゴミ問題

　既にミクロネシア連邦についてよく知っている方もいるかと思いますが、改めてミクロネシア連邦が抱えるごみ問題とは何か、それに対し私たちがどのような活動を行っているのかご紹介したいと思います。

[1]ミクロネシア連邦を含む太平洋島嶼国では、国土の狭さや生活習慣の変化に伴う廃棄物の

---

[1] “大洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクトフェーズ 2”.ODA 見える化サイト. https://www.jica.go.jp/oda/project/1500257/index.html

増加、それらを処理する施設と人材不足などの問題を抱えています。このような問題から、島嶼国が先進国のゴミの墓場になっているとの指摘もあります。実際に、プラスチックで包装される日本製のお菓子や、それらがポイ捨てされているのを現地ではしばしば見かけました。そこからミクロネシア連邦で起きているゴミ問題は、日本人である私たちにもつながっている問題であると強く感じました。

現地での私たちの活動

今回の渡航では、Ohmine Public School（以下 Ohmine 小学校）と Nett Public Elementary School（以下 Nett 小学校）の 2 校で環境教育を実施しました。2 校合わせて約 160 人の 8 学年(日本の中学 2 年生相当)の生徒を対象にしました。子ども達の行動変容を促すことを目標に、メンバーで何度も話し合いを重ね内容を検討しました。行動変容を目標にした背景には、環境教育を受けて終わりという一時的なものではなく、継続的な行動の変化を促したいという思いがあります。今回の環境教育では、以下 3 つのことに主眼を置きました。子ども達が主役であること、継続的な行動変容を促す内容であること、そして他のステイクホルダーを巻き込むことです。

当日の流れとしては、まず手作りの紙芝居にクイズを織り交ぜながら知識をインプットします。その後、グループになり、投票型ゴミ箱のアイディアを考えてもらいました。投票型ゴミ箱では、ゴミを捨てることによってアンケートに投票できるというものです。最後に、1 番ゴミを捨てたくなるアンケートを考えたグループをクラスで多数決を取り、選びました。選ばれたグループのアイディアを反映した投票型ゴミ箱を学校に設置させていただきました。他のステイクホルダーを巻き込むという点では、設置したゴミ箱の管理を先生方に協力をしていだきました。そして、JICA 海外協力隊の樋口沙穂さんには、環境教育の内容の検討、ゴミ箱設置後のモニタリングという点で協力していただきました。また、現地の方と手を取り合い、共に働く樋口さんの姿から本当に多くのことを学びました。快く協力してくださった Ohmine 小学校と Nett 小学校の先生方、そして樋口さん本当にありがとうございました。

グループに分かれアイディアを考えている様子　　生徒が考えたアイディアをもとに作成したゴミ箱

子ども達が主体となり考えることで、ミクロネシア連邦の文化や流行を取り入れたアンケートを作成することができました。ミクロネシア連邦の子ども達は、とにかく素直で真っすぐな子が多く、環境教育も全力で楽しんでくれました。彼らのキラキラした笑顔の救いもあり、無事環境教育を終えることができました。

最後にみんなでパシャリ

学生のうちにこのような素晴らしい経験を得られたこと、大変嬉しく、そして幸運なことだと思います。